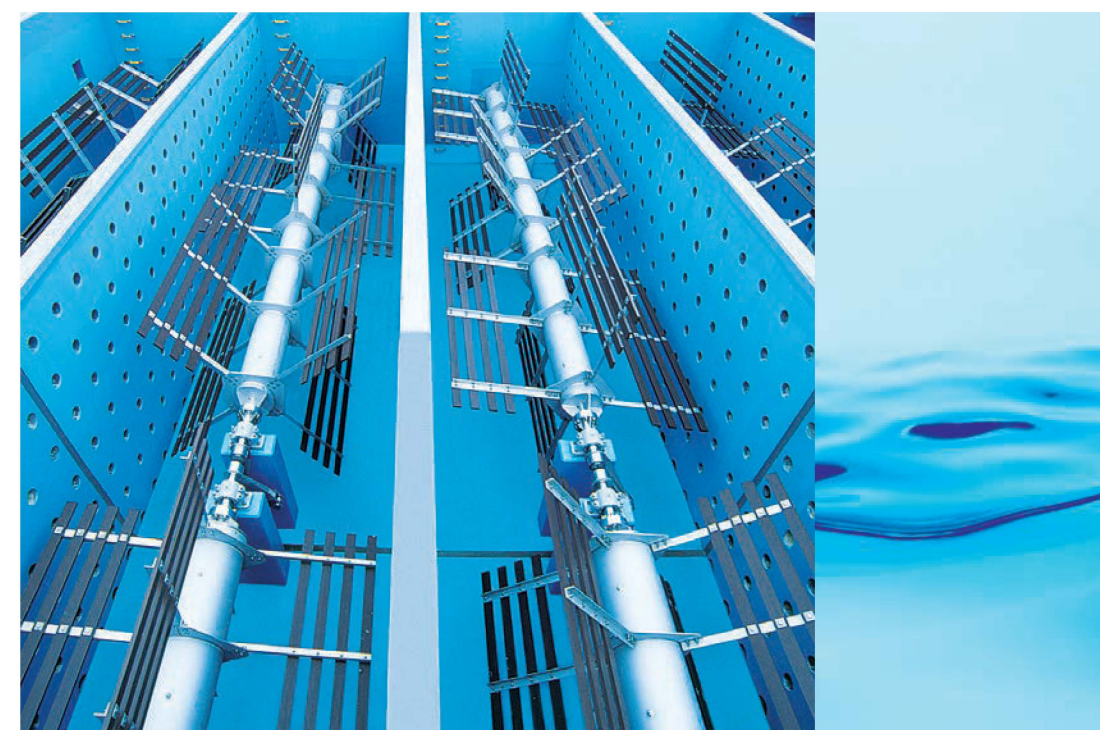


フロート式フロキュレーター

- 💧 水中軸部の長寿命化
- 💧 ライフサイクルコストの低減
- 💧 改造・更新が容易
- 💧 耐震性の向上



水をつくる、いかす、考える。

 **FUSO**

フLOAT式フロキュレーター



フLOAT式フロキュレーターの特長

水中軸部の長寿命化

浮力の利用により水中軸受部の荷重が軽減され、長寿命化を実現しました。

ライフサイクルコストの低減

水中軸受数の削減と水中軸受部への荷重軽減により維持管理性が向上し、ライフサイクルコストの低減が図れます。

改造・更新が容易

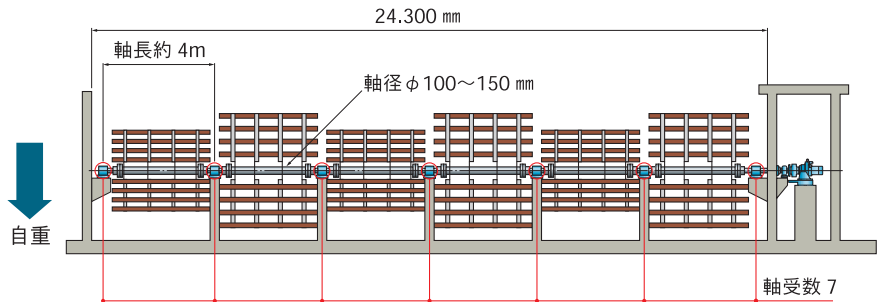
既設のフロック形成池を活かした改築が可能です。

高い耐震性

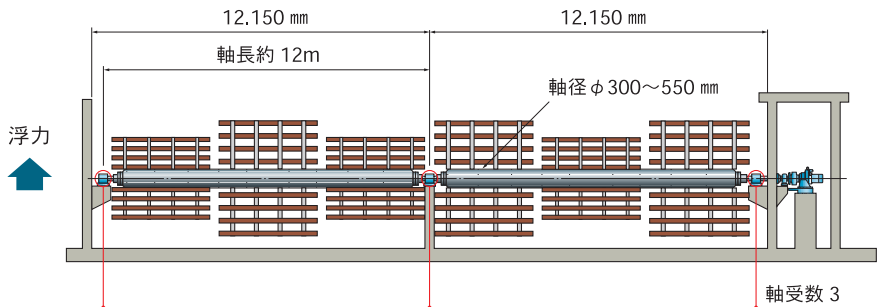
SK ジョイントの利用により大きな変位を吸収し、高い耐震性を実現しました。

従来方式とフLOAT軸方式の比較

< 従来方式 >



< フLOAT軸方式 >



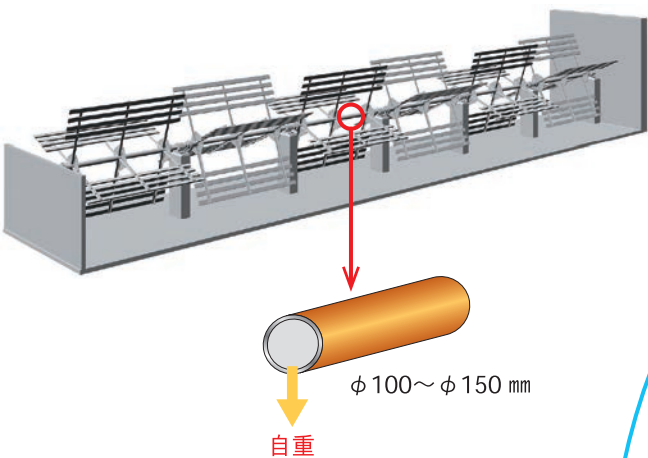
従来方式との比較表

項目	フLOAT軸方式	従来方式
水中軸受数	3	7
軸受摩耗箇所	上面部	下面部
軸受摩耗量（実績）	約 0.026 mm / 年	約 0.117 mm / 年
軸長（最大）	約 12m	約 4m
軸径	φ300~550 mm	φ100~150 mm

78%DOWN

フLOAT式フロキュレーターの構造

< 従来方式 >



SK ジョイント



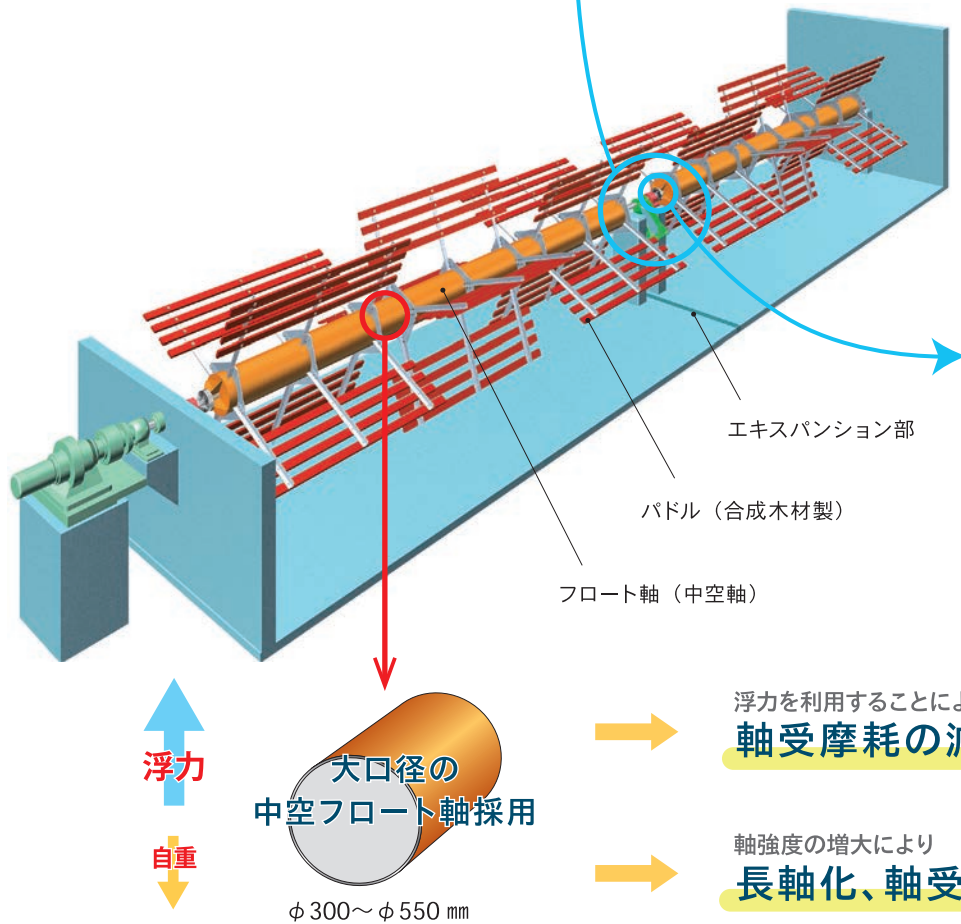
球面軸受を介し、リンク機構を応用した自在継手で、従来のゴム継手と比べ、大きい変位を吸収するため、土木構造物の不等沈下や地震対策に有効です。

従来品との比較表

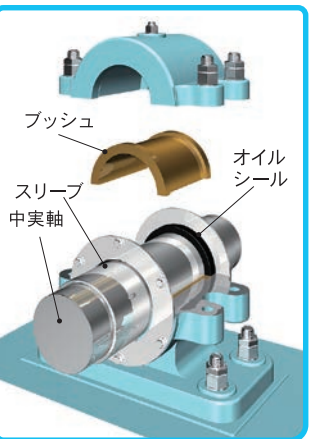
項目	SK ジョイント	従来品
両軸の偏心	±100 mm可能	外径の1%以内 (±5 mm)
両軸の間隙誤差	±50 mm可能	外径の-2%以内 (-10.+0 mm)
両軸の偏角	5° 以内	5° 以内
自重	小	大

※従来品はゴム継手

< フLOAT軸方式 >



水中軸受



浮力により、上半分のブッシュしか摩擦しません。従って特に重機用いず、上半分のみ取り外すことで点検が可能です。

浮力を利用することにより
軸受摩耗の減少

軸強度の増大により
長軸化、軸受数の減少